



良いことをキチッと ENJOY ROTARY!

ロータリーは世界をつなぐ - 今も、これからも -

クラブの戦略計画は未来の行動計画です

2019-20 年度は国際ロータリーの新しい戦略計画が導入された年でした。この戦略計画は急速に変化する世界でより良く奉仕していくために必要な「未来の行動計画」です。

クラブ公式訪問でお伝えしてきた「あなたのクラブの戦略計画」次年度のために会長エレクトとともに見直し推進してください。最後の一ヶ月ですべきことがきつとあります。



未来のために 会員増強・維持を！

社会の変化にロータリーは対応していかななくてはなりません。そしてこのような社会情勢のなかで、今こそ私たちは行動しなくてはなりません。ロータリーの会員になっているメリット・楽しさ・魅力を伝えましょう。
社会で良いことをしたい、誰かの役に立ちたいという想いを伝えましょう。
ロータリアンとしての誇りをもってクラブのために行動しましょう。

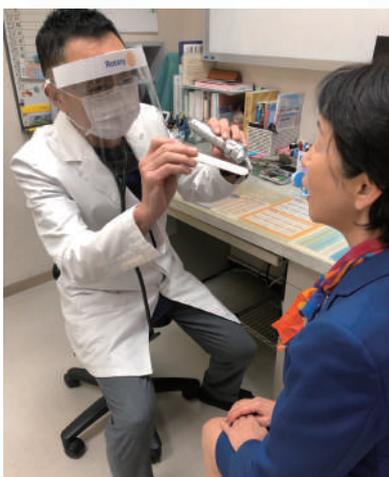
- * 会員増強のために、どのように行動すべきか
- * 次世代の若い人たちにロータリーをどのように伝えていくか
- * 女性会員が入会しやすいクラブ環境とはどのようなものなのか
- * シニア会員にどのように活躍してもらうのか
- * クラブを活性化するために何をするのか



フェイスシールド海外寄贈計画

地区にて4月に各県と医療に従事するロータリアンに寄贈したフェイスシールドは、現在日本国内の医療機関に85万セットが贈呈され、大きなインパクトをもたらしています。

そのフェイスシールドをブラジル、ペルー、フィリピン、マレーシアの4ヶ国にグローバル補助金を使って53万セット贈呈する予定です。これは多くの地区が ONE TEAM を組みグローバル補助金を使っての計画です。日本のロータリアンのつながりに感謝し、これからも世界でそして地域社会で必要とされる活動が続けられることを願っています。



ガバナーチャンネルはこちら

< ZOOM を使った WEB 会議 >

※ iPhone はカメラアプリ、Android は QR コード読み取りアプリにてご利用いただけます。

一喜一憂?! 地区幹事のつばやき

新しい生活様式は、ロータリーにも求められています。各クラブでは ZOOM を利用した理事会も行われています。とはいえ、世代を問わず IT にハードルがあるのも事実。

地区として、サポートできる部分があるはず!

本年度もあと1ヶ月。「つながり」を実感、「つながり」に感謝、これからの「つながり」を楽しみにしています。



2019-20 年度を振り返って (委員長編)



RLI 推進委員長 星野 喜忠

昨年 12 月 21 日に当地区初めての RLI パート I を開催、会長エレクトを中心に約 80 名が受講しました。準備に約 2 年をかけ研修を重ねてきた 28 名の DL 諸君の大活躍により成功裏に終了しました。引き続きパート II を本年 3 月 20 日に計画していましたが、コロナによる緊急事態宣言により延期。現時点では 9 月 26 日周辺で密回避のため 2 回に分けての開催を検討中です。様々な局面でご理解とご協力をいただいた会員および RLI 関係役員の皆さまに心から感謝申し上げます、引き続きご協力をお願い申し上げます。

危機管理委員長 洞江 秀



今年度も、当地区青少年奉仕活動において、危機管理委員会の発動を要請されるような性的虐待セクハラ等の報告はなく、ホッとしています。委員長としては、全国危機管理委員長会議に参加して研修を受けるなど日々精進してはおりますが、くれぐれも当委員会が活躍することのなきよう、関係者の皆様をお願い申し上げます。



学友委員長 池戸 智之

当地区にはロータリー財団山静学友会、米山記念奨学生学友会、青少年交換学生学友会の3つの学友会があり、当委員会では、これらの有望な学友会員のロータリー活動への参加、新しい形のロータリークラブの新設などを目標に今年度よりスタートさせ、実態調査、他地区での活動調査を進め、今年度より3年間活動していきます。

公共イメージ向上委員長 近藤 茂



次期委員長であった 2018 年 12 月から安間年度は実質始まりでしたが、ここまであっという間に過ぎ、そして大変充実した時を刻むことができました。4ヶ所でのセミナー開催、マイロータリー登録率日本 NO.1 地区を目指したり、公共イメージ向上の一助となる活動に、非力ながら夢中になることができました。自分を支えていただいた安間ガバナー、中村地区幹事ははじめガバナー事務所の皆様、そして地区へ送り出してくれた浜名湖 RC のメンバーに感謝し、この貴重な経験を今後のロータリアン人生に活かしていく所存です。本当にありがとうございました。



会員増強・維持委員長 岩澤 秀治

会員増強をテーマに、ガバナー補佐の皆さんにお力をお借りして共に活動をして参りましたが、残念ながら世界的なコロナウィルス感染拡大のため、道半ばにして活動がストップし、今年度もあと 1ヶ月あまりで終わりを迎えようとしています。ロータリーの一番大切な財産は会員です。そして堅固な会員基盤があれば、クラブに活気が生まれ、地域社会でのクラブの存在感が高まり、奉仕の力が高まります。このような状況下ではありますが、次年度(将来)に向けて増強活動にもぜひ、ロータリーの粘り強さを生かして下さるよう皆様のお声がけを切にお願いいたします。

奉仕委員長 山崎 文義



新たな試みとして「複数クラブ合同奉仕事業支援金制度」を立ち上げました。多くのクラブにご賛同いただき 23 のテーマを計画することが出来ました。残念ながら新型コロナ禍の影響で一部実行断念となった事業もありましたが、多くの事業が各地域に貢献でき歓迎されたことは大きな意義のある制度となりました。ご協力いただきました安間ガバナーはじめ各ガバナー補佐、各クラブ会長幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。



ロータリー財団委員長 松村 友吉

一年間大変お世話になりました。地区内クラブにおいては、例年同様大多数のクラブで地区補助金を活用し、活発な奉仕活動が行われ、また、グローバル補助金についても、徐々に浸透して、新たに国際奉仕活動を展開するクラブが誕生してきました。財団の活用はまだまだ不十分です。寄付と共に財団の活用を今後ともよろしくお願い致します。コロナ後の世界は、ロータリーの奉仕活動をますます必要としています。

ロータリープログラム委員長 小澤 邦比呂



青少年交換・インターアクト・ローターアクトの各委員会が今年度はロータリーの原点に立ち返っての活動をして参りました。事業活動を通じて本来主役であるはずの青少年が自立し、心と体の相伴った成長を促す機会と考えます。しかしコロナウィルスのため、今年に入り全ての委員会活動が中止となり、プログラム委員会としての時間は止まってしまいました。その止まった時間はロータリーの神様からいただいた次年度に向けての大切な時間だと前向きに捉え、さらに感動する青少年事業、より良い青少年のための委員会づくりにしていくべきだと考えます。



米山記念奨学委員長 影山 忠弘

コロナ禍により期間終了式、研修会が行えないなかで各世話クラブ、カウンセラーの皆様のご協力により13名の奨学生を送り出し、新たに15名の奨学生を迎え入れることができました。今年度は継続生をあわせ24名の奨学生受け入れとなります。また、各クラブより米山奨学事業に対する快い「寄付」と「世話クラブ・カウンセラー」への理解をいただいたことに心より感謝申し上げます。

米山梅吉記念館委員長 外川 正知恵



米山梅吉記念館 50 周年におきましては、安間ガバナー始め、地区パストガバナー、エレクト、ノミニ、デジグネート、地区内外のロータリアンの皆様方のお力添えにより、無事 50 周年記念式典が挙行できましたことを心より感謝申し上げます。本年度上期は、周年事業の準備に追われる中、館にご来訪の全国ロータリアンの皆様への対応と忙しく活動しましたが、下期は、コロナの影響で春季例祭等すべてが中止となりました。地区運営委員一丸となって、館が「ロータリアンの聖地」となるよう努力していきたいと思っております。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

